

学内に拠点がある強みを活かし、 スピード感ある技術連携ができます。

株式会社エーワンテクニカ 代表取締役 金田 英一

会社概要

会社名	株式会社エーワンテクニカ
代表者	代表取締役 金田 英一
設立	1967年4月
資本金	1,000万円
事業内容	プラスチック成形事業、コーティング事業、 ウルトラファインパブル事業
URL	http://a1tec.co.jp/



東京理科大学との 技術連携(共同研究等)のきっかけ

当社はもともとプラスチック製品の金型製作と成形加工を主な事業としていましたが、2011年頃からペットボトルなどを成形するブロー成型用金型向けのコーティング事業を展開し、この頃から様々な研究開発に取り組むようになりました。そのような中、東京理科大学葛飾キャンパスが設置され、何か技術連携が出来ないかと模索していたところ、イノベーションジャパンに東京理科大学が出展することを知り、そこで理工学部先端化学科の近藤剛史先生との接点が生まれました。イノベーションジャパンへの訪問は後にも先にもその1回のみでしたが、そこから複数の大学との様々な連携(自社製品の開発、研究器材製作への協力など)に発展しました。なかでも、近藤先生との共同研究は今後の当社ビジネスの発展に大きな期待が持てる成果が出つつあります。

技術連携(共同研究等)の内容

技術連携先は野田キャンパスにある理工学部先端化学科の湯浅真先生、近藤先生の研究室になります。当該研究室とは2016年に「水処理用電極の開発」を目的として共同研究契約を締結し、以降、現在に至るまで契約を継続して研究開発を進めています。なお、この研究開発を進めるに当たって、



水処理施設用オゾン発生装置



水処理施設用汚泥掻き寄せ機

葛飾区の「新製品・新技術開発補助事業」による資金的な支援が受けられたことも大きな推進力となりました。さらに葛飾キャンパス基礎工学部電子応用工学科の相川直幸先生とも「水処理施設大型装置のIoT化」に関する共同研究を行うなど、当社の研究開発の幅が今まで以上に広がってきていると実感しています。

事業や業績への影響(技術連携のメリット)

東京理科大学の知名度によるところが非常に大きいと考えています。当社は葛飾キャンパスに設置された企業向け研究施設のうち、「産学試作開発室」という名称の部屋に入居していますが、このことが会社のブランド力向上に大きく寄与しています。また、商談先企業の担当者に東京理科大学OBがいらっしやると話題が弾み、何かと商談が優位に進むようになったとも感じています。それとやはり東京理科大学に拠点を設けることが出来たメリットとしては、すぐ近くに研究者やコーディネータがいることで、様々な技術的相談が気軽に出来るようになったことです。「産学試作開発室」への入居は当社にとって非常に良い変化をもたらしています。



産学試作開発室